No	機材名	仕様	数量	価格
H	〔事務用品〕			DH
1	コピー用紙	A3用紙（500枚セット）	20	2,300
2	〃	B4 〃 （ 〃 ）	40	3,200
3	〃	A4 〃 （ 〃 ）	60	3,450
4	〃	B5 〃 （ 〃 ）	10	450
5	コピートナー液		30	9,000
6	事務用消耗品	ノート、ファイル、ノリ、インキ	92品	53,199.20
	小計			71,599.20

⑥ 年次計画に対する今後の方針

1) カウンターパート（C/P）教育

モロッコ漁業海運省、アガディール漁業高等学院より、公式に任命された学院漁業科教師、カウンターパートに対する教育を学院側と協議を重ねた結果

1. 第1回初年度C／P教育は学生教育年度をはずし、9月1日より10月15日の間1カ月半とし、トロール実務を主体とした教育内容で実施する。
2. 前項を受けて鈴木、阿部両トロール専門家作成の第1回C／P教育計画が提出された。
3. この教育はトロール網（6枚網）の製作とこの製作網を使用した学院訓練船Ar-Rachid号による漁労、操業実習を行う事を目的とし、この教育内容のもたらす教育効果、成果として

a) C／P（学院教師）の座学を主体とした知識に実習面の知識を補強する事により学生教育に反映させる。

b) 日本人専門家の指導による訓練船乗組員に対する授業訓練も実施する事が出来る。

c) 年間操業稼動率の低い訓練船を少しでも運航させる事による搭載機材のメンテナンス効果を高める。

以上を踏まえた第1回C／P教育は次の通り、

1. 教育担当専門家

鈴木直逵 専門家

阿部俊二 専門家

2. 教育期間

昭和62年9月1日～10月15日

3. C／P

① Mr. Boutoui　　学院教師

② Mr. Mouradi　　〃

③ Mr. Oudaoud　　〃

④ Mr. Bendhaiba　　〃

⑤ Mr. Lakhmeur　　〃

⑥ Mr. Benlamine　　学院訓練船船長

4. 教育内容

トロール6枚網の制作及び製作したトロール網による訓練船Ar－Rachid 号を活用した操業実習訓練及び遠洋航海訓練

5. 使用教育機材

① 昭和62年度供与機材現地調達網費材
（昭和62年8月　ラスパルマスより調達）

② 日本政府により無償供与された訓練船Ar－Rachid 号

③ 鈴木、阿部専門家作成　第1回C／P教育教科書

尚、C／P教育は毎年9月～10月集中教育として実施し、その教育内容、期間は毎年6月か7月に開催予定の合同委員会にて供与機材の到着状況（レーダシュミレーター、回流水槽etc）及び前年度実施された教育の反省点を踏まえ決定される。

昭和62年　カウンターパート集中教育内容及びマニュアル作成状況

（教育期間　S62.9.1～10.15）

教育内容	1987年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	網地の斜断										15		
2	網地の縫い合せ												
3	節縄の取付け									C/P			
4	グラントローブ浮子網の作成												
5	網の仕立て									集			
6	ロープワイヤーロープの取り扱い、トロール用素具の作成												
7	漁場探索法									中			
8	トロール漁具船上操作									教			
9	破網修理												
10	操業中の事故対策									育			
11	トロールウィンチ操作												
12	航海、漁撈計器操作保守												
13	漁場図の作成												
14	操業日誌の記入												
15	操業時の操船法												
16	漁獲物処理保存												

カウンターパート再教育の為のプログラム（網の仕立及び海上実習）

日付	曜日	内容	実施場所		備考
			ITPM	ARRACHID	
9月1	火	再教育プログラム説明、網図面の説明	○		
2	水	資材準備、部分網作製	○		網地の斜断
3	木	〃	○		〃
4	金	部分網つぎ合せ	○		
5	土	〃	○		
6	日				
7	月	部分網つぎ合せ	○		

日付	曜日	内容	実施場所 ITPM	実施場所 ARRACHID	備考
9月8	火	筋縄とり付け	○		
9	水	〃	○		
10	木	ロープ、ワイヤー類　仕立	○		手綱、ペンネント、グランドロープ芯……etc.
11	金	〃	○		
12	土	〃	○		
13	日				
14	月	グランドロープ作製		○	
15	火	〃		○	
16	水	ヘッドロープ作製	○		午後身網をアルラシッドへ移動
17	木	ヘッドロープへの身網取付	○		
18	金	グランドロープへの身網取付		○	
19	土	浮子取付		○	
20	日				
21	月	索具の取付		○	
22	火	予備日			
23	水	〃			
24	木	〃			
25	金	〃			
26	土	〃			
27	日				
28	月	出港準備			
29	火	〃			
30	水	出港、操業実習			○漁場探索
10月1	木	〃			○網操作
2	金	〃			○事故対策
3	土	〃		7日間	○トロールウィンチ操作
4	日	〃			○船橋内の仕事
5	月	〃			○魚処理
6	火	〃			○航海計画、操業野帳
7	水	入港、アガディール		2日間	○漁場図

日付	曜日	内　　容	実施場所		備　　考
			ITPM	ARRACHID	
10月8	木	アガディール		2日間	○操　船
9	金	出港、操業実習			…… etc.
10	土	〃			
11	日	〃			
12	月	〃		7日間	
13	火	〃			
14	水	〃			
15	木	〃			

当プログラムの参加者

- ○　教　師　　4名
- ○　専門家　　2名
- ○　アルラシッド乗組　　6名

12名

※　操業中のアルラシッド機関部職員等は別勘定

ii) カウンターパート講義指導及び学生教育カリキュラム改善指導

I.T.P.Mとしての教育カリキュラム、ティーチャーズガイド等充分に確立されておらず、これらソフト面における充実を図るため、C/P教育終了後、学生教育年度開始の10月よりC/P担当授業(座学実習)に専門家が参加し、C/Pの講義内容の指導及び改善を実施しつつ、かつ新たな供与機材の学院への般入を勘案し、教育カリキュラム、ティチャーズガイドの作成改善を進め、学生教育内容の充実を図る。

1. 講義指導に伴うマニュアル作成

① 講義用トロール理論　ティチャーズガイド

② トロール漁具陸上実習マニュアル

③ 航海漁業計器マニュアル

④ トロール海上実習マニュアル

⑤ 視聴覚機器活用マニュアル

2. 基礎調査活動

モロッコにおける水産の現状把握はI.T.P.Mにおける遠洋トロール士官養成のための教育活動を進める上で必要不可欠な事項であり、当プロジェクト活動の位置付けを社会

的に確認する意味でも重要な要点である。又、今後卒業生の就職動向を把握する意味からも以下の調査活動を実施して行く。

① モロッコ水産資料の整備

② 主要漁港調査（漁船数、水揚げ量 etc）

③ 水産関連機関調査（民間水産会社調査含む）

④ 民間トロール船乗船によるモロッコトロール漁業現状調査

昭和62年（1987） カウンターパート講義指導、カリキュラム改善指導及びマニュアル作成（含基礎調査）

		月 / 内容	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
基礎調査	1	モロッコ水産資料の整備												
	2	主要漁港調査、報告書												
	3	水産関連機関調査												
	4	水産会社調査報告書												
	5	民間トロール船による モロッコトロール現状把握												
教育指導	6	講義用トロール理論資料（カリキュラム改善）充実												
	7	同上資料仏語化												
	8	トロール理論講義指導（学生教育参加）												
	9	トロール漁具、陸上実習指導（学生教育参加）												
	10	同上マニュアル作成												
	11	航海漁業計器、操作、保守管理指導												
	12	同上マニュアル作成												
	13	学生海上実習内容充実指導												
	14	同上マニュアル作成												
	15	視聴覚機器活用指導												

iii) Ar-Rachid 号乗組員運航・操業指導

1981年　日本政府により無償供与されたトロール漁船は、

船　　名	Ar-Rachid　（アル・ラシッド号）
総トン数	270トン
機　　関	ディーゼル　1,000馬力
乗組員	11名

供与当初はJICA個別派遣専門家による指導により良好な運航管理体制がしかれ学生に対する海上実習も実施されていたが、専門家の離任に伴い、その稼動日数も下降をたどり、1986年には過去最低の45日の稼動日数（航海のみ）を確保したに過ぎない。

当プロジェクトの目的である遠洋トロール士官養成のためには供与訓練船による海上実習が充分確保される事が必要不可欠であり、当プロジェクト発足当初より、漁業海運省を含めた関係機関と話合いを重ねて来た。

これら訓練船の正常な稼動日数を確保出来ない最大の要因は燃料費の予算処置がなされなかった事にあり、今後訓練船を独立採算体制に移行させる事で大蔵省の合意も得、漁獲物を販売し燃料を確保するモロッコ側の体制が定うものと思われる。

しかしながら、訓練船の現状は漁労機械等メンテナンス不足から、今後充分独立採算体制を支えるとは判断出来ない。また乗組員も人の交替とともに現状では大型漁撈機械を使用可能な者が少い。したがって専門家による運航操業指導を実施し、訓練船の正常運航化を図る。

鈴　木　専門家　　阿　部　専門家

C/P　Mr. Banlamine　訓練船船長　他

1. 運航管理体制確立のための指導（ソフト面）
   a) 訓練船運航計画の確立（操業計画）
   b) 乗組員管理システムの確立
   c) 航海、操業、学生実習等に必要な計画書、報告書等、書式フォームの作成
2. 訓練船運航正常化のための指導（ハード面）
   a) 乗組員職務分担表の作成
   b) 漁労、航海機材整備点検指導
   c) 船体保守点検
   d) トロール操業実務指導
   e) 乗組員職務分担別実務指導（士官、甲板員）
3. マニュアル作成（C/P教育と重複）

   トロール操業実務マニュアル

昭和62年度　学院訓練船（Ar－Rachid号）漁撈指導

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	運航管理体制確立のための指導												
	a．訓練船運航計画確立												
	b．乗組員管理システム確立												
	c．航海操業、学生実習計画書、報告書等、書式フォーム作成												
2	運航正常化のための指導												
	a．乗員職務分担表作成												
	b．機材整備、点検指導												
	c．船体保守点検指導												
	d．トロール操業実務指導												
	e．乗員分担別職務実務指導												
3	マニュアルの作成（C/P教育と属製）												
	a．メロール操業実務マニュアル												

⑦ ＩＴＰＭ１９８７年度運営予算

アガディール漁業高等技術学院　１９８７年度運営予算

収入		支出	
第Ⅰ章		第Ⅰ章	
外国人生徒の寄宿費用分担	P.M.	下級漁船乗組員養成学校及び学校保有船「Ar－Rachid号」諸経費	1,385,488.78 DH
第Ⅱ章		第Ⅱ章	
教員、管理・事務系要員の食事分担	P.M.	生徒給費及び実習費	P.M.
第Ⅲ章		第Ⅲ章	
臨時収入及び雑収入	P.M.	人件費	104,600.00 DH
第Ⅳ章			
１９８６年１２月３１日時における繰越金	190,088.78 DH		
第Ⅴ章			
国家一般予算の助成金	1,300,000.00 DH		
合計	1,490,088.78 DH	合計	1,490,088.78 DH

財政相により承認。

漁業海運相により承認。

アガディール下級漁船乗組員養成学校長により提出。

１９８６会計年度運営予算費用割当

第１章 ： 下級漁船乗組員養成学校及び学校保有船「Ar－Rachid号」運営諸経費

第１条 ： 保守・修理

第１項 ： 建物の整備・保守　95,000.00 DH

（未払金　11,853.00 DH）

第２項 ： 家具・器材の保守・修理　10,000.00 DH

第３項 ： 車両運転・保守・修理　12,000.00 DH

第４項 ： 学校保有船「Ar－Rachid」の保守・修理、 345,000.00DH
装備、運営 （未払金 44,633.50DH）
第１条として要求された経費総額 570,000.00DH
（未払金 56,486.50DH）

第２条 ： 消 費 材
第１項 ： 生徒食費 457,248.78DH
（未払金 61,517.11 DH）
第２項 ： ボイラー室・調理室用燃料 25,000.00DH
第３項 ： 薬 剤 5,000.00DH
第４項 ： 下着・其の他リンネル製品洗濯、特殊製品 P．M．
第５項 ： 文房具、印刷用品、焼付け、複写用品、教材、雑誌予約 45,000.00DH
第２条として要求された経費総額 532,248.78DH
（未払金 61,517.11 DH）

第３条 ： 購入・新品取替え
第１項 ： 生徒衣服 111,240.00DH
第２項 ： 要員衣服 30,000.00DH
第３項 ： 技術器材及び研究器材の購入と取替え 40,000.00DH
第４項 ： 家具、家財及び器材購入と取替え 30,000.00DH
第５項 ： スポーツ用品、娯楽用品 3,000.00DH
第３条として要求された経費総額 214,240.00DH

第４条 ： 各種役務
第１項 ： 医師の報酬 14,000.00DH
第２項 ： 催し物開催 5,000.00DH
第３項 ： 各種料金 50,000.00DH
第４条として要求された経費総額 69,000.00DH
第Ⅰ章として要求された経費総合計 1,385,488.78DH
（第１、２、３、４条）

第Ⅱ章 ： 給費及び実習費用
第１条 ： 生徒給費 P．M．
第２条 ： 実習及び輸送費 P．M．
第Ⅱ章として要求された経費総額 P．M．

第Ⅲ章 ： 人件費	
第1条 ： 講師特別手当、幹部配属手当	40,000.00DH
第2条 ： 管理要員・教育者の出張手当	32,000.00DH
第3条 ： 超過時間手当	P.M.
第4条 ： 航海要員に対する洋上勤務手当	8,200.00D
第5条 ： 会計係責任報酬金	14,400.00DH
	（未払金 7,200.00DH）
第6条 ： 現金出納手当	P.M.
第7条 ： キロメートル手当（運転手）	P.M.
第8条 ： 臨時雇用	10,000.00DH
第Ⅲ章として要求された経費総額	104,600.00DH
	（未払金 7,200.00DH）
第Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ章として要求された経費総額合計	1,490,088.78DH
	（未払金 127,203.61DH）

予　定　収　入

第Ⅰ章 ： 外国人生徒の宿舎費用分担	P.M.
第Ⅱ章 ： 教員、管理、事務系要員の食費分担	P.M.
第Ⅲ章 ： 臨時収入及び雑収入	P.M.
第Ⅳ章 ： 1986年12月31日時における繰越金	190,083.00DH
第Ⅴ章 ： 国家一般予算の助成金	1,300,000.00DH
第Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ章の総合計	1,490,088.78DH

JICA